

# 広島県幼児教育の現状

八坂富子



## 広島県幼児教育の現状

広島といえはすぐ原爆の惨状を思い浮かべる程、戦争を境にいろいろなことが新しく生まれ変わったようである。幼児教育についても同様なことがいえる。広島市を中心にして保育所の発展がめざましく、復興のつちおとと共に時代の要請にこたえて、法の裏づけに支えられながら雨後の筍の如く新設され、現在では四百あまりの施設をもっている。

これに対して幼稚園は戦前から古い伝統をもった少数の幼稚園があったが、広島、呉、福山の如く戦禍のはげしかったところは大きく焼失して、戦後これらの復興と共に新設も合わせて現在二百近くの施設をもっている。

広島県は面積も非常に広く地理的な条件によって三通りの地区に分けることができる。瀬戸内沿岸部と中国山脈沿いの山間僻地部と

瀬戸内に散在する大小多数の島しょ部である。この内沿岸部が人口の密集地で保育施設も公私立の保育所、幼稚園が多く分布している。山間僻地と島しょ部には公立の幼稚園と保育所が散在しているに過ぎない。県内の交通も沿岸部を除いては不便で、島通いの小船と単線のローカル線があえぎあえぎ通っている程度で文化の交流も思うに任せない。したがって県内の往復も日帰りのできないところがたくさんある。県内のどこかで保育研究会や講習会が開かれても、遠隔地の者はある程度の財力と暇がなければ参加することもできない。このような悪条件を克服しながら保育にあたっているのがわれわれであり、本県の保育施設である。

しかし部分的には保育施設が普及して三原市の如く皆保育の実施されているところもある。小学校二三に対して保育施設二七、学童新入一年生は百%保育修了児である。

経費状況

保育料 (月)			その他 (月)			回答率
最高	最低	平均	最高	最低	平均	
1,500	800	1,074	700	0	242	29/51
1,300	800	988	500	30	206	16/25
1,300	600	925	300	80	197	6/6
700	600	667	300	210	263	3/4
1,000	500	840	550	140	348	5/6
500	400	475	170	160	165	2/2
800	650	725	150	100	125	1/3
600	600	600	160	160	160	1/1
						0/1
1,300	1,300	1,300	50	50	50	1/1
400	400	400	400	400	400	1/2
1,200	350	913	300	0	145	6/7
600	450	517	80	50	63	3/4
1,000	1,000	1,000	250	30	140	2/4
						0/2
700	700	700	50	50	50	1/1
750	750	750	50	50	50	1/1
600	600	600	200	200	200	1/1
500	500	500	100	100	100	1/1
500	500	500	50	50	50	1/1
600	600	600	100	100	100	1/1
1,500	350	919	700	0	207	82/125

保育料 (月)			その他 (月)			回答率
最高	最低	平均	最高	最低	平均	
400	400	400	550	70	183	16/17
500	225	477	1,068	0	271	12/12
600	600	600	160	123	146	3/3
500	400	4才500 5才400	200	80	128	4/5
400	400	400	240	53	115	3/3
						0/1
300	200	250	150	50	91	8/9
350	250	300	330	90	158	4/5
300	300	300	30	30	30	1/1
0	0	0	150	150	150	1/1
300	300	300	45	45	45	1/1
350	350	350	0	0	0	1/1
250	200	217	63	60	61	3/10
600	0	338	1,068	0	162	57/69

また御調郡向東幼稚園の如く、無償で皆保育を実施しているところもある。  
**保育団体の歴史的変遷**

昭和三年に県下の幼稚園託児所関係の有志が相より、保育者の団体芸備保育会が発足した。当時の規約や記録を見ると、三十年以上経た今日の保育団体と大体似たような規約で似たような事業をやっている。規模こそ小さいが草分け時代の保育関係者が力を合わせて仲間作りをしながら向上しようとする意気込みがうかがわれる。昭和十年の機関誌芸備保育の創刊号を見ると、会員の研究発表や学者

の論文などがかなりなスペースをとっている。当時の施設数が幼稚園託児所合わせて約六十施設、会員が約一三〇名である。発足当時から今日まで、旧女子師範の附属幼稚園に事務所があり、県下の幼児教育のサービスセンターとしていろいろな役割を果たしてきたのである。

戦中戦後世の中の目まぐるしい変化に伴って関係法規の改正もあり、保育団体の使命や名称に幾度か変遷を経て、現在では、  
 広島県幼稚園協議会……幼稚園の団体

○広島県私立幼稚園連盟

昭和37年度 教諭数、学級数、園児数、保護者負担

私 幼 の 部

郡 市 別	教 諭 数			学級数	幼 児 数				入 園 料		
	教 諭	助教諭	合 計		3 才	4 才	5 才	合 計	最 高	最 低	平 均
広 島	116	51	167	151	323	1,860	2,469	4,652	2,000	300	931
呉	41	38	79	63	200	711	931	1,842	1,000	0	456
三 原	26	13	39	28	249	386	356	991	1,000	300	750
尾 道	14	4	18	17	28	256	331	615	1,000	1,000	1,000
福 山	23	9	32	26	90	450	402	942	2,000	500	1,000
因 島	4	2	6	6	36	110	61	207	700	500	600
三 次	6	1	7	6	12	89	56	157	500	500	500
庄 原	3	0	3	3	13	48	64	125	500	500	500
松 永											
大 竹	5	1	6	5		47	91	138	1,000	1,000	1,000
竹 原	3	1	4	5	18	62	81	161	600	600	600
安 芸	14	12	26	21	51	259	257	567	1,000	0	467
豊 田	4	4	8	8	12	80	190	282	300	200	267
安 佐	8	3	11	9	38	120	172	330	500	300	400
佐 伯											
賀 茂	2	1	3	3	10	29	50	89	300	300	300
御 調	2	1	3	3	4	23	50	77	500	500	500
比 婆	1	4	5	4	8	47	88	143	700	700	700
高 田	0	2	2	2		12	30	42	300	300	300
神 石	1	2	3	3	7	19	27	53	200	200	200
甲 奴	3	1	4	3	20	22	26	68	500	500	500
計	276	150	426	366	1,119	4,630	5,732	11,481	2,000	0	668

国 公 幼 の 部

郡 市 別	教 諭 数			学級数	幼 児 数				入 園 料		
	教 諭	助教諭	合 計		3 才	4 才	5 才	合 計	最 高	最 低	平 均
福 山	45	4	49	49		71	1,361	1,432	200	200	200
三 原	27	10	37	36		563	783	1,346	300	0	25
尾 道	15	3	18	17		270	426	696	0	0	0
因 島	7	10	17	20		198	503	701	0	0	0
竹 原	7	2	9	9		132	181	313	100	100	100
府 中											
豊 田	6	8	14	14		50	400	450	200	100	150
安 佐	6	2	8	8	1	36	143	180	240	0	60
深 安	3	1	4	4			103	103	100	100	100
御 調	3	1	4	4			159	159	0	0	0
賀 茂	0	2	2	1			26	26	100	100	100
双 三	1	1	2	2		30	43	73	500	500	500
山 県	4	0	4	4		37	91	128	0	0	0
計	124	44	168	168	1	1,387	4,219	5,607	500	0	104

○◇ 国公立 ◇  
 広島県保育連盟連合会……保育所の団体  
 ○ 郡市別保育連盟

の二つの団体があり、前者は広大付属幼稚園に、後者は広島県民生部児童課に事務所がある。それぞれの団体の末端組織（市町村）が活動の母体になって事業や研究活動を行っている。大きな二つの団体はそのまま役をあずかかって、対県接渉や全国組織との橋渡しの役を負っているともいえる。

**広島県幼稚園の現状と問題点**

広島県幼稚園協議会が毎年諸調査を行なって、その実態を明らかにしている。三十七年度に実施した調査資料を次に掲げる。

**びに科目**

音 楽	専 門	工 体	門		計	総 計
			育 其	他		
50	50	49			149	596
16	16	16			48	208
44	44	44			132	393
30	30	30			90	322
25	25	25			75	239
60	59	59			178	544
	2				2	6
3	2	2			7	24
3	4	3			10	45
10	10	10			30	147
8	7	8			23	100
5	5	5			15	15
4	3	3			10	29
5	5	5			15	41
263	262	259			784	2,709

**広島県幼稚園分布状況**

都 市 別	私 幼	国公幼	計
広島市	51	0	51
呉市	25	0	25
尾道市	6	12	18
三原市	4	3	7
福山市	6	17	23
因幡郡	2	5	7
竹原市	2	3	5
三次市	3	0	3
原市	1	0	1
大府市	1	0	1
安芸郡	1	0	1
深津郡	0	1	1
山賀郡	4	0	4
賀茂郡	4	5	9
佐伯郡	0	1	1
西条郡	0	10	10
赤松郡	1	1	2
瀬田郡	2	0	2
庄原郡	1	1	2
神門郡	1	0	1
高井郡	1	0	1
江田郡	0	1	1
江田郡	0	0	0
江田郡	0	0	0
江田郡	0	0	0
高井郡	1	0	1
計	125	69	194

**一、施設の分布状況**

○県西部、広島、呉地区に私幼が集中し、東部、福山、三原地区に公幼が集中している。

○島しょ部、山間僻地には公幼が散在している。

○施設の大きさは幼児数十六名の農村零細幼稚園から四百名の都市マンモス幼稚園に至るまでさまざまである。

**二、教諭数、学級数、園児数、保護者負担経費状況**

○教諭と助教諭の割合が二対一である。私幼の方が稍良い。

○学級数と教諭数の関係が公幼は同数、私幼は教諭数の上廻っている。兼務園長の多い公立幼では設置基準に程遠い感がする。

○幼児の年齢が年々低下している。つまり年少児保育のふえる傾向

昭和37年度幼稚園教員資格向上に必要な修得希望単位数並

郡市別	希望人員計			一般			教職					計
	2→1	臨→2	計	人	自	社	計	教	心	原	心	
広島	2	20	22	50	50	48	148	75	75	75	74	299
呉		6	6	16	16	16	48	28	28	28	28	112
福山	9	5	14	42	42	43	127	33	33	34	34	134
三原	5	5	10	33	34	34	101	32	33	33	33	131
尾道	4	3	7	20	20	20	60	26	26	26	26	104
因島	8	9	17	54	54	54	162	51	51	51	51	204
竹原		1	1								4	4
三次	3	0	3	2	2	3	7	2	2	3	3	10
大竹		1	1	4	3	3	10	6	6	6	7	25
豊田		6	6	10	10	10	30	22	22	21	22	87
安芸	1	2	3	8	7	8	23	13	13	14	14	54
安佐		1	1									
比婆		1	1	3	3	3	9	2	2	3	3	10
山県	1		1	4	4	3	11	3	4	4	4	15
総計	33	60	93	246	245	245	736	293	295	298	303	1,189

あがる。これは五才児の絶対数の減少に伴って施設にゆとりができたのと、一般の認識が高まったのによる。

○保護者負担経費が毎月平均私幼が一、二六円 公幼が五〇〇円。  
三幼稚園教員資格向上に必要な修得単位数並びに科目

○助教の多い本県では特に資格向上のために現職講座の必要に迫られている。これは現職講座の一環として、幼稚園関係の講座を開いてもらうよう県教委や大学に要望する時の資料である。毎年実現して、資格向上に役立っている。

○幼稚園教員の計画養成については、国立では広大教育学部で小学校課程の副専攻として希望者が単位修得して免許状を取得するが、少数である。私立では安田女子短大保育科が幼稚園教員養成に当って県内の需要をみたしている。

#### 四、給食に関する調査

○幼稚園にミルク給食が実施できるようになったのを機会に第一回の調査を行なった結果である。結果から考えると未だ低調で実施前の多くの問題が山積している。

#### 五、研究会 研究組織

○県私幼連の中に研究部会があって、実際に研究活動を行なうために地区を三つに分けて、広島、呉、東部の単位グループがそれぞれ当面している課題に取り組んで研究活動をすすめている。これが全国組織にもつながるので、全国組織からの課題にも応じられる。

# 給食に関する調査資料

私 幼 の 部

昭和37.5

	ミルク給食		そ の 他 の 給 食			
			主 食 と 副 食	副 食	間 食	
実 施 回 数	週1回……2 2回……2 3回……1	4回……4 5回……5 6回……4	週2回……2 3回……1 月1回……3	4回……1 5回……1	週 月1回……1	週6回……1 月1回……1
	計 15 (数字は実施園数)		計 8 (82園の回答を集計したも の)		計 1	計 2
経 費	1回2円……2 3円……3 5円……2 7円……1 25円(パンをつける)……2 30円(                   "                   )……2	11円……1 15円……1 16円……1	1回10円……2 16円……1 26円……1 30円……1 35円……2 50円……1		1回20円……1 計 1	1回3円……1 15円……1 計 2
	計 15		計 8			
施 設 ・ 設 備	調理室 有18(専12, 兼6) 無64	設備用具 釜……………17 鍋……………9 ミルクわかし……………1 ミキサー……………2 パン機……………1 ミキサー……………2 バーナー……………1 食器洗滌器……………1	ミルクポット……………2 やか器……………6 食パンケース……………2 パンケたて器……………1 あわけつる……………5 はわて……………3 ボツ……………2	すし……………1 おいた……………1 なす……………1 しょうゆ……………3 おけ……………1 計……………1 カブ……………2 カブ……………2 カブ……………1 カブ……………1 カブ……………1	コップ……………22 パン皿(大)……………13 副食皿(小)……………5 椀……………4 茶碗……………1 茶スプーン……………4 茶スプーク……………2	
	食堂 有7(専1, 兼1) 無75					
実 施 し な い 理 由						
1	設備がないため……………				27	
2	必要を認めない……………				3	
3	人員がないため……………				1	
4	設備が手がないため……………				5	
5	母の会の役員がいないため……………				1	
6	新築中(完成後実施の予定)……………				5	
7	保護者の要求が少ないため……………				3	
8	ミルクを好まない幼児が多いから……………				3	
9	職員に負担がかかるから……………				1	
10	人件費がかかるから……………				1	
11	経費負担が大きいから(設備費, 人件費)……………				6	

○県国公幼連では事業の一つとして毎年研究発表会を開催する。研究の単位グループを五地区にわけて地区ごとに課題を設けて共同研究をし、一年間の成果を持ち寄る。最近は長期計画による共同研究を目指して、本年は地区ごとに取り組んだ三年計画による課題研究の第二年目を迎えた。これも全国組織につながるもので、そちらからの課題にも応じられるようになってきている。

○広島県幼稚園協議会では事業の一つとして毎年公私の枠をはずした共通な課題について研究会や講習会その他必要な研究活動を行なっている。この会は国公私立の各連盟から理事を出して理事会が事業の企画や運営に当たっている。県が広いので会場も地区持ちまわりにして、主題や内容は地区の自主性を尊重して、バラエティーに富んだ行事が開かれる。

昨年は、広島県幼児九千名の体力測定を実施して、二年がかりで統計処理をして幼児の運動能力の基準を作成した。

国 公 幼 の 部

	ミ ル ク 給 食		そ の 他 の 給 食		
			主 食 と 副 食	副 食	間 食
実施回数	週 3回…… 2 5回…… 3 6回…… 1 計 6 (57園の回答を集計したもの)		週 1回…… 1 4回…… 2 3回…… 2 5回…… 3 月 1回…… 1 計 9	週 5回…… 2 6回…… 1 計 3	週 1回(入園当初のみ)… 1 2回…… 1 6回(入園当初のみ)… 1 月 1回…… 2 計 5
経費	1回25円…………… 1 27円…………… 1 4円…………… 1 9円…………… 1 23円(主副食も含む)… 1 25円( " )…………… 1 計 6		1回20円…………… 1 23円…………… 1 25円…………… 5 30円(牛乳を含む)… 1 35円( " )…………… 1 計 9	1回10円………… 1 13円………… 1 17円………… 1 計 3	1回3円………… 3 10円………… 1 15円………… 1 計 5
施設・設備	調理室 有 17 (専 6, 兼 11) 無 51	食 堂 有 3 (専 1, 兼 2) 無 55	設 備 釜…………… 16 鍋…………… 1 ミルク攪拌機… 3 ミックス………… 2 ミキサー………… 2 ばね…………… 4 蒸器…………… 1 野菜裁断機… 3	食器洗機………… 3 消毒………… 2 かき鉢………… 5 すり鉢………… 1 洗桶…………… 1 やかん………… 5 あわため器………… 1 ホル…………… 2	食はんり………… 1 はかり………… 1 杓子…………… 1 盆…………… 1 がん切り………… 1 皮むき………… 2 運搬車………… 1 パン皿(大)… 11 副食皿(小)… 10 碗…………… 4 コップ………… 15 ジャム, バタ入 1 ばきみ………… 1 スプーン………… 2 フォーク………… 1
実 施 し な い 理 由					
1 設備がないため…………… 28					
2 人員がないため…………… 5					
3 ミルク給食が実施可能になったことを知らなかった…………… 1					
4 予算がない(設備費と人件費)…………… 6					
5 保護者の経費負担がかさむから…………… 1					

また視聴覚、放送、造型、施設研究などの全国組織からの呼びかけもこの組織で応じられるようになってい

以上三つの団体がそれぞれ計画した研究行事については、県が共催して応分の県費補助があり、係官の出張指導も受けられる。

県教委には兼任で幼稚園の指導主事が置かれている。市教委も福山市の場合は専任の指導主事が置かれて現場の指導に当たっている。

秋は殊に研究行事多様な時で参加する者も主催する側も席のあたたまる間がない。

むすび

施設の普及や研究組織についてはやや整ってきた感があるが、現場の実際保育、教師の保育内容の研究、資質の向上については幾多の問題を抱えて未だ道遠しの感がある。以上は私が関係する限りの狭い範囲の見聞に過ぎない。眼にとまらなかつた農村の片隅で、明るい希望にみちた保育の実際や研究が育っているのかも知れない。(広島大学付属幼稚園)